

文化 歴史

サハラ遊牧民の壁画 写真展で

アルジェリアの世界遺産タッシリ・ナジェール

の一角にある「イヘーレン岩壁画」の写真展が17日、東京都中央区立郷土天文館タイムドーム明石で始まる。

写真家の英隆行さんが撮った写真をほぼ実物と同じ約9センチ幅にして、かつて調査隊が作った模写も紹介。約5000年前とみられる壁画は、まだ緑豊かだったサハラ砂漠の動物や遊牧民の姿を伝える。それぞれ巨大砂岩に描かれた約150点のうち、今回の壁画は右から左へ連続する形で構成される。遊牧民はキリンやガゼルの群れを横目に移動。ライオンを狩る姿も見られる一写真。「心の機微が感じられる構図も多い。当時の遊牧民の営みに思いをはせてもらえれば」と英さんは語る。入場無料。21日まで。10月9～13日、京都市の京都文化博物館でも開催。



いた岩壁画として評価を得ているという。主催者の写真家、英隆行氏が現地でも撮影した写真145枚を使って再現した。また、フランス国立自然史博物館―人類博

21日まで、入場無料。問い合わせは英氏(hana52@osa-ka.email.ne.jp)。

物館の協力を得て、調査隊の模写も展示する。

イヘーレン岩壁画 幅9センチ実物大再現 きょうから写真展 世界文化遺産にも登録されている北アフリカ、アルジェリアのタッシリ・ナジェール国

立公園にある「イヘーレン岩壁画」を、幅9センチの実物大パノラマ写真で再現した写真展が17日から、中央区明石町の「タイムドーム明石」で開かれる。イヘーレン岩壁画は

紀元前3000年ごろの制作と推定され、1969年にフランスの調査隊により発見された。草原の動物や家畜、住居の前に集う人々の姿が描写されており、新石器時代の様子を描

週刊サンデー毎日2014年10月12日号(9月30日発売)

SUNDAY LIBRARY

石川健次 Art Scene

「英隆行 イヘーレン岩壁画写真展」

北アフリカのアルジェリアに広がるサハラ砂漠の中央部に、考古学的に貴重な景観で知られ、世界遺産に指定されているタッシリ・ナジェール台地がある。その台地に残る先史時代の岩壁画を見た。緑豊かだった5000年前のサハラに暮らす遊牧民や羊などの家畜、キリンやライオンなど野生動物の日常が、生き生きと丹念に描かれている。現地に行つたわけではない。今月中旬、東京都内で開かれた本展を見た。写真家の英隆行が撮影した縦2・5メートル、横8・5メートルに及ぶ長大な写真に写し出された岩壁画を見たのである。英によれば、タッシリ・ナジェール台地には15000点以上の岩壁画が残る。撮影されたのは、台地の北西部、観光地などからは遠く離れたイヘーレンの岩壁画だ。先史時代の壁画といえ、フランスのラスコーやスペインのアルタミラが有名だ。それらはいずれも洞窟壁画である。

イヘーレン岩壁画はむぎ出しの岩壁に描かれ、砂漠化して以後は灼熱の太陽、風雨にもさらされつづなした。否、砂漠なので雨はほとんど降らない。人里からも遠く、めつたに人は訪れない。そうした偶然が、保存には向いていたようだ。図版は、水場で水を飲む牛を描いた場面だ。リズムカールに反復する頭や角が、実に愉快だ。ストローでビールをうまさうに飲む遊牧民の姿には、大いに親しみを感ずる。本展は、10月9日から13日まで、京都市中京区高倉通三条上の京都文化博物館(☎075-2222-0888)でも開かれる。



水場の牛

ART

いしかわ・けんじ 東京工芸大教授。東京芸術大在学中から国内外の展覧会を巡り、毎日新聞美術担当記者を経て現職。湘南在住

# 京日記



◆北アフリカ  
・サハラ砂漠の  
タッシリ・ナジ  
エール台地に残

る「イヘーレン岩壁画」を  
紹介する写真展が、京都市  
中京区の京都文化博物館で



開かれている＝写真。

◆同岩壁画は、紀元前3000年ごろに描かれたとされ、1969年に発見された。巨大な岩肌縦約3メートル、横約9メートルにわたって遊牧民の暮らしぶりや野生動物が描き出されている。

◆大阪府豊中市在住のアマチュア写真家、英隆はなゆたか行さん(62)が企画。昨年末に現地で撮影した実物大の写真パネルを中心に風景写真など20点を出展している。13日まで。無料。

(上田裕子)